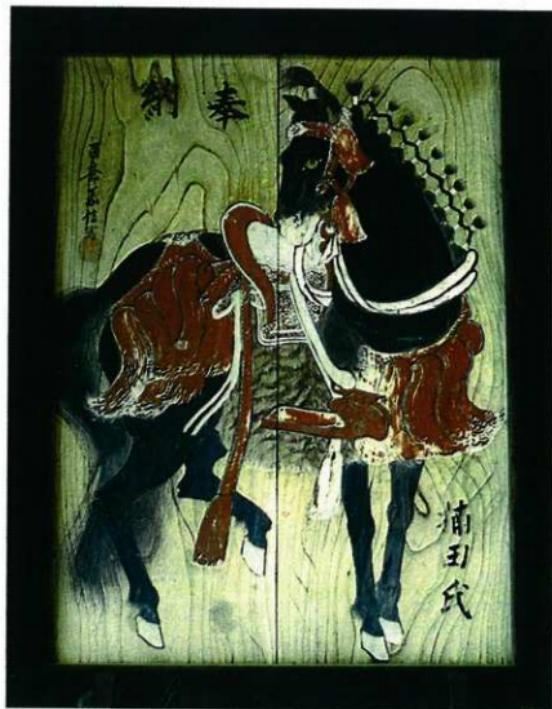


市川町の文化財



1992

兵庫県神崎郡
市川町教育委員会

はじめに

科学や経済の発達が、反面には人類の生存をおびやかすという現象から、自然破壊への警告と相まって、祖先の文化遺産への関心が非常に高まってきた。このことは大事にしなければなりません。

わが市川町も旧石器時代から現代にいたるまで数万年の歴史を持っていました。そしてこの長い間、祖先の生きてきた証がいま文化財として私たちの前に残されてきています。この文化財を守っていくことが現代に生きるもののが使命です。

この冊子では指定文化財に限らず、市川町の歴史を語るうえで欠くことのできないものを収録しました。市川町の文化財が少しでも町民の方々の身近なものになれば幸です。

市川町教育委員会

教育長 藤澤喬

◎本書を作成するにあたり、下記文献を参考にさせていただきました。

1. 『昭和 60 年度指定 兵庫県文化財調査報告書』

兵庫県教育委員会 1986

2. 田岡香逸「塩谷の十三仏種子板碑」『史迹と美術』第 335 号 1963

3. 『播州歌舞伎』 兵庫県立歴史博物館 1983

4. 『姫路城とその時代』 兵庫県立歴史博物館 1987

5. 『淡路島の文化財』 淡路文化史料館 1986

◎本書の写真については岡本正史氏の協力を得ました。

◎表紙写真 八幡神社絵馬 百斎義信筆 市川町甘地

裏表紙写真 甘地の獅子舞 市川町甘地 県指定文化財



1. 観音寺山古墳 - 古墳時代前期 - 県指定史跡

市川町奥 観音寺所有

標高 214 m の山頂に位置する前方後円墳である。前長 27 m ・ 前方部幅 7.5 m ・ 後円部径 15 m を計り、後円部には主軸に直交して竪穴式石室が築かれている。石室の構造等からみて、4 世紀を下らない重要な古墳と考えられる。



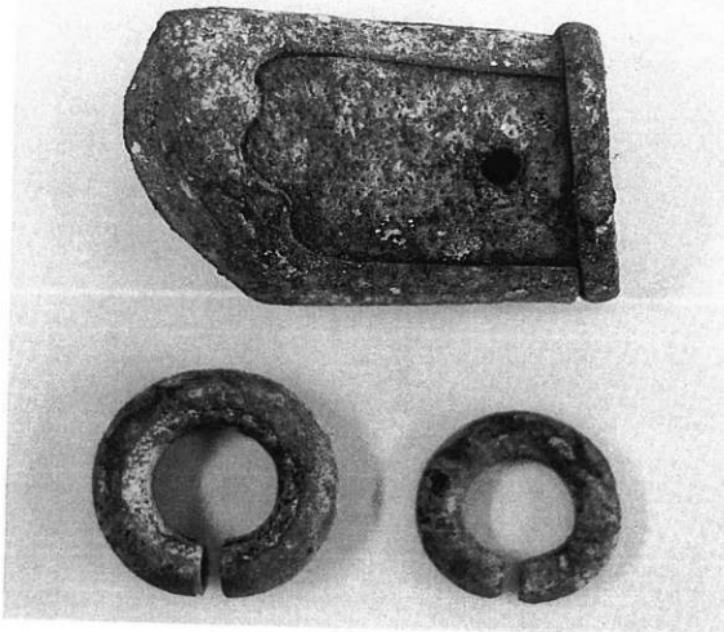
2. 倉谷古墳

— 古墳時代中期 —

町指定史跡

市川町奥

直径20m・高さ2mの円墳で、長さ3m・幅1.2m・高さ1mの竪穴式石室を持つ。盗掘のため天井石は失われているが、他の部分は、完全な形で残っていた。鉄刀・鉄剣・鉄鎌等が出土している。5世紀初頭の重要な古墳であるため調査後、現状で保存、公開されている。



3. 圭頭大刀把頭 一 古墳時代後期 一 町指定文化財

市川町沢 山王2号墳出土 市川町教育委員会

山王2号墳は径13m・高さ3.7mの円墳で、長さ8m・幅1.8m・高さ2mの横穴式石室をもっていた。他の出土品に耳環・鉄鎌・馬具・須恵器が知られる。圭頭大刀把頭は県下で3例しか知られていない。



4. 青銅製經筒 一 平安時代 一 県指定文化財

市川町沢出土 今井太郎氏所有

經筒は見晴しのよい尾根上に小型の石室を造り安置されていた。經筒内部には塊状となった經巻と木片が残っていた。保存も良好で、当時の末法思想を知る上で貴重である。



5



6



7

5～7. 笠形寺仏像 — 平安時代 —
町指定文化財

市川町上牛尾 笠形寺所有

笠形寺は法道仙人の開基、そして慈覚大師によって再興されたと伝えられる。播磨最高峰の笠形山全体が修験道の一大聖地であったらしく、山のあちこちで平安時代の土器を採集することができる。これらの仏像から当時の繁栄の様子が想像される。



8. 絹本著色不動明王像

－南北朝時代－

町指定文化財

市川町上牛尾 笠形寺所有

斜め右向きに不動明王の立像を描き、背後に迦楼羅炎を大きく現し、左右下方に二童子を配している。的確な描写力をもった優れた画像である。

9. 追儺面

－天文22年（1553）

室町時代－

町指定文化財

市川町上牛尾 笠形寺所有

追儺は「修正会」と呼ばれる正月行事で、仏の使者が悪鬼を追い払う所作をおこなう。この面の裏には「天文廿二年再造」と墨書されている。製作年がわかる貴重な面である。





番号	1号碑	2号碑	3号碑	4号碑	5号碑	6号碑	7号碑	8号碑	9号碑
本尊種子	(地藏)力	(薬師)イ	(觀音)サ	サ 勢至 ク	弥陀坐像	(弥陀)キリーグ	(阿閦)ウーン	(大日)バン	(大日)アーランク
真言等	光明真言	光明真言	大日報身真言	東方發心門五字		金剛界五仏種子	南方修行門五字	北方涅槃門五字	金剛界五仏種子
銘文	三十五日逆修	四十九日逆修	善逆根修	逆修善根一周忌常念		逆修來三年善根	逆修七年忌常念善根	逆修永廿一年三十日忌常念善根	應永廿年三十日忌常念善根
全高	93cm	101cm	104cm	119cm	79cm	119cm	130cm	127cm	90cm

10. 塩谷十三仏種子板碑 — 應永20年(1413)室町時代 — 県指定文化財 市川町上牛尾 塩谷区管理

高さ1m前後の凝灰岩の石材で、頭部を山形に切り板碑の形式をとどめている。上部に本尊種子を、その下に真言・五仏の種子などを刻む。銘文によって常念という名の人物が死後の菩提を祈念して應永20年に造立したことがわかる。一石毎に一尊づつを表すものは珍らしい。



11

11. 大通寺宝篋印塔

— 康應元年（1389）南北朝時代 —

町指定文化財

市川町東川辺 大通寺

宝篋印塔の基礎部である。上面に重厚な反花を持ち、側面輪郭に「康應元年」を刻む。側面中央、格狭間の中に「開花蓮」と呼ばれる珍らしい文様が刻出されている。

12. 大梵寺五輪塔 — 鎌倉時代 —

市川町近平 大梵寺

全長約 110 cm、地輪（基礎）・火輪（笠部）の背が低く、水輪（塔身）の形も球形で、全体的にどっしりと重厚な形態を持つ。石材は花崗岩。美術史的に見ても当時の第1級品と評価してさしつかえないと思われる。



12

13. 牛尾村池田検地帳

- 慶長 9 年 (1604) 江戸時代 -

町指定文化財

市川町上牛尾 上牛尾区所有

関ヶ原の戦の後、池田輝政は播磨国を与えられた。輝政は姫路城の大改築に着手し、現在の形を完成させた。その費用を得るために行ったのが池田検地であるが、それまでの村高よりも2割増とされる過酷なものであった。池田検地帳の数少ない資料のひとつである。





14



15



16

14~16. 笠形神社 一 江戸時代 一 町指定文化財

市川町上牛尾

笠形神社の歴史は笠形寺と同じく 1000 年以上の長さを持っている。現在町指定となっている本殿・中宮・拝殿は江戸時代後半の建立であるが、彫刻が特にすばらしく、丹波柏原の中井家一統の作である。拝殿はもと笠形寺の本堂であった。



17. 岩戸神社 — 江戸時代 — 町指定文化財
市川町上牛尾

正中元年（1324）に旧の本殿が建立されている。巨岩・巨木に囲まれた風致はすばらしく、姫路城主松平大和守も自ら参拝している。彫刻は笠形神社と同じ中井家一統の作である。

18. 絵馬 百斎義信筆

—江戸時代—

市川町奥 大歳神社

百斎義信は江戸時代後期に姫路周辺で活躍した絵師で、すばらしい絵馬を多く残している。経歴については姫路在住としか判明しないが、絵の技量は他の絵師とくらべ、ずばぬけている。



18

19. 道標 西国三十三所巡礼道

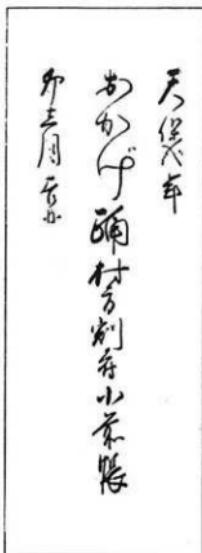
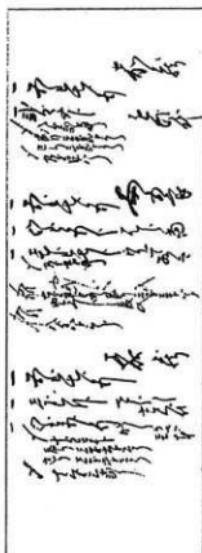
—江戸時代—

市川町奥・近平・谷

西国三十三所巡礼は庶民に大変人気があった。第27番播磨書写山から第28番丹後成相寺への巡礼道が市川町を通っている。町内で成相寺を示した道標が10基確認されており、当時の巡礼道を復元することができる。



19

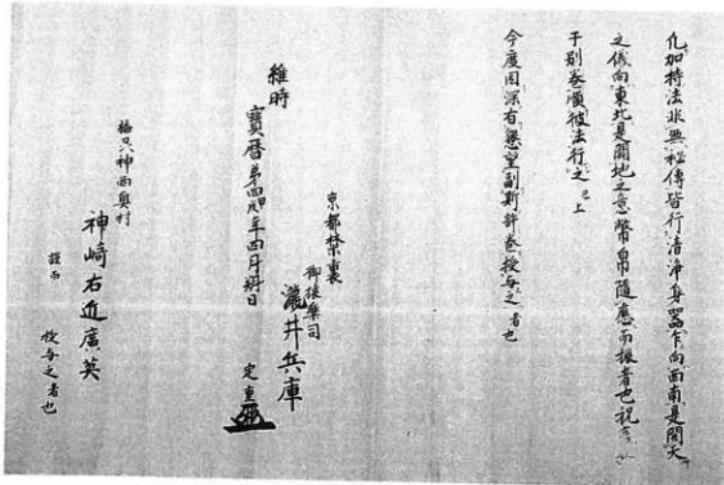


(部分)

20. おかげ踊り — 江戸時代 —

燈籠=市川町小室 小室天満神社 天保3年（1832）町指定文化財
古文書=市川町沢 沢区所有 天保2年（1831） 町指定文化財

「おかげ参り」が爆発的な庶民の伊勢神宮参詣現象であったのに対し、「おかげ踊り」はそれぞれの村や神社で踊りあかした社会的現象であった。古文書「おかげ踊村方割付小前帳」は、踊りのための費用徴収・支出の記録である。「おかげ踊燈籠」は踊りを記念して「御影踊連中」によって建立されている。市川町が現在確認されている「おかげ踊」の西端である。



(部分)

21. 猿楽師由来書 — 宝曆4年（1754）江戸時代 —

市川町奥 神崎竹男氏所有

播磨は農村歌舞伎のさかんな土地である。市川町にも座元のひとつ「神崎座」が活動していた。この由来書は座に伝えられたもので、播州歌舞伎の源流を知る上で参考となる。

済の外の事候
憲章小考法律
小憲を巡る事分
在所なく就るも
公用の度紙如何
新捨付今後云
此度相手可者也

縣廳

(部分)

22. 播但一揆関連資料 明治初期

市川町屋形区所有

明治4年、明治政府の解放令に端を発した大一揆は、しだいに反政府色を帯び、その攻撃目標は県役人・大庄屋に向けられるようになった。そしてついに、市川町屋形で生野県権少属白洲文吾が殺害され、生野鉱山が焼打された。この文書は一揆が鎮圧された5日後に人々を諫めるために生野県から各村々に出されたもので、当時の生々しい様子を知ることができる。



23. 甘地の獅子舞 県指定文化財

甘地獅子舞保存会

甘地の獅子は本獅子（雌獅子）のため、頭のつくりも小さく、女性的でまわし方も優美である。舞は11曲あり、うち2曲は1人立舞で、他は2～5人の子どもがささらや剣を持って獅子を誘導する。



24. 下瀬加庚申堂のくくりザル 町指定文化財
小林日出夫氏管理

農業や養蚕の神として庚申信仰がさかんであるが、下瀬加の庚申さんは「イボの神さん」として有名で、天井には幾万とも知れぬ「くくりザル」が語れている。イボの平癒のお札にあげたものである。



25. 鶴居の長持道中

鶴居長持保存会

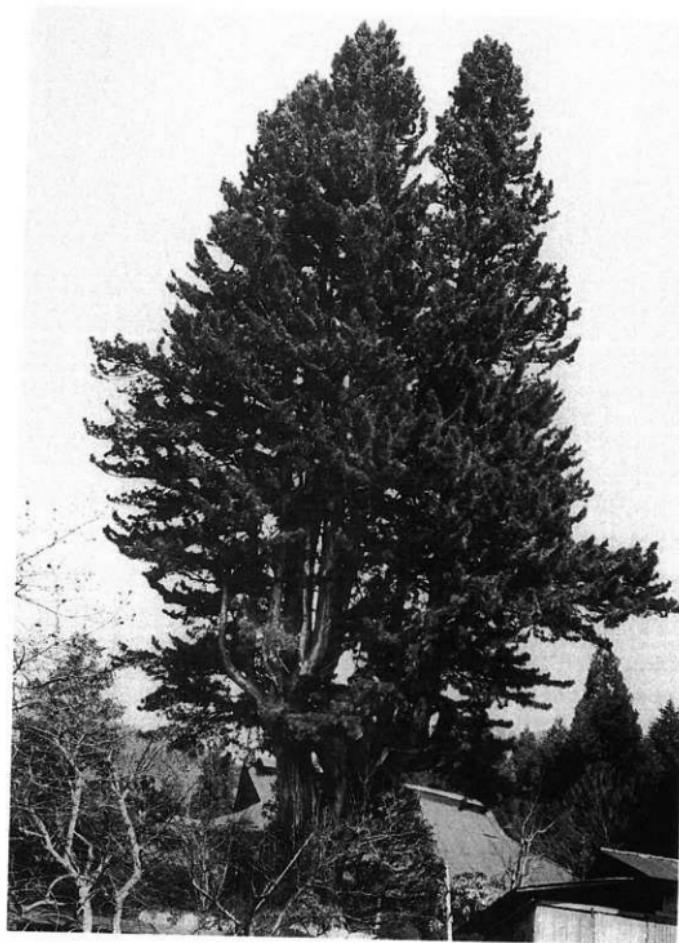
この長持は祭りのご馳走や酒を運ぶもので、前後四人づつが長持竿を担ぎ、唄手が長持唄を歌う。村中を担ぎまわった後、宮入り、奉納する。

26. 虫送り

甘地地区・下牛尾地区

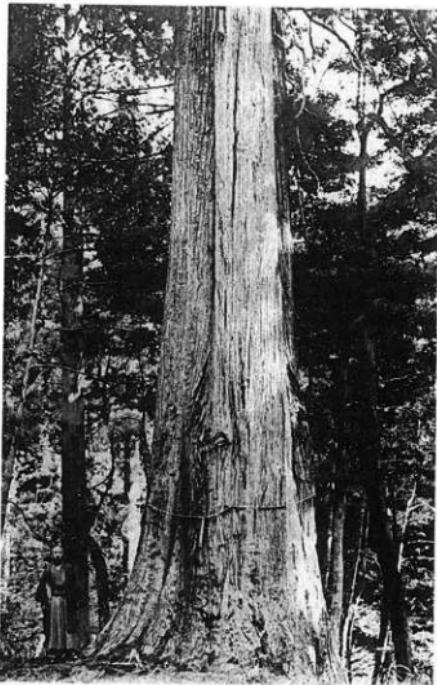
村内の悪霊を外へ追い出すための集団祈願である。7月下旬の夜、たいまつに火をつけ、馬にまたがり刀をさしたサネモリ人形（斎藤実盛）を先頭に、カネや太鼓を鳴らして田をまわる。子ども達が主役の行事である。





27. 笠形寺のコウヤマキ 県指定天然記念物
市川町上牛尾 笠形寺

根回り 8.8 m、樹高 20 m、樹令 450 年と推定されている。コウヤマキは常緑の喬木で、木材は特に水に強く、おけや船材に用いられる。また樹皮は「まきはだ」と呼ばれ、水漏れを防ぐのに使われていた。



28. 笠形神社の大スギ
町指定天然記念物
市川町上牛尾 笠形神社
高さ 50 m、根回り 9.5 m を計り、播磨富士笠形山にふさわしい巨木である。播磨地方にはこれ程までのスギはないと言われている。笠形神社の御神木である。

29. 小室天満神社のクスノキ

町指定天然記念物

市川町小室 天満神社

このクスノキは樹高 30 m、直徑 2 m の大きさを持つ。地上 8 m のところより、20 m にも張り出した枝が拝殿を覆っているさまは見事である。



30. 谷大歳神社の

野生のフウラン

町指定天然記念物

市川町谷 大歳神社

このフウランは神社境内のムクの木の幹に群生している。開花時期は7月頃で、葉の根元から花芽が伸び出し、そして3~10cmの細い花茎の先に甘い芳香を漂わせる花を咲かせる。



市川町の文化財 4版

編集発行 市川町教育委員会
兵庫県神崎郡市川町西川辺 165-3
発行年月日 平成4年3月31日(1992)

